

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2016.11

No.115

会報

目次

■ 平成 29 年度（第 39 回）通常総会のご案内	1
■ 第 6 回 富澤基金贈呈式のご案内	1
■ 第 39 回（2016 年）日本分子生物学会年会 開催のお知らせ（その 3）	2
■ 市民公開講座「ゲノム編集は生命観を変えるか？」のご案内	5
■ 研究倫理フォーラム 開催のお知らせ	5
■ キャリアパス委員会主催 ランチョンセミナー 2016 卓越研究員制度の活かし方—選ぶ側と選ばれる側の論理 これでいいのか大学院教育！	6
■ キャリアパス委員会報告	7
■ 第 20 期理事選挙結果について	8
■ 第 7 回（2017 年）日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ	9
■ 国際会議支援システム利用について	10
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	11
■ 第 19 期役員・幹事・各委員会名簿	12
■ 賛助会員芳名	13



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<http://www.mbsj.jp/>



The 39th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan

第39回 日本分子生物学会年会

2016 11.30 [水] → 12.2 [金]

[年会長] 一條 秀憲 (東京大学)

[会場] パシフィコ横浜

[大会HP] <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2016>

[連絡先] 第39回日本分子生物学会年会事務局 (株式会社エーイー 企画 内)

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2016@aeplan.co.jp

[演題投稿受付期間] 2016 7.1 [金] → 7.29 [金]

[事前参加登録期間] 2016 7.1 [金] → 10.14 [金]



平成 29 年度（第 39 回）通常総会のご案内

平成 28 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 荒木 弘之

以下の要領で第 39 回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

例年同様に“開かれた”総会を目指し、パシフィコ横浜展示ホール内に特設会場を設置して開催いたします。本年は年会全体プログラムの都合上、最終日午前のシンポジウム終了後の時間帯での開催となりますが、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。

ご存知のように、本学会は 2007 年に特定非営利活動法人となり、重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員の総数の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

なお、総会案内通知および出欠はがき（委任状）は、新年度の会費請求書にも同封して発送（10 月下旬）しています。ご都合がつかない場合には、必ず、委任状をご提出くださるようお願いいたします。

記

日 時：平成 28 年 12 月 2 日（金） 11：30～12：15

〈総会終了後、第 6 回富澤基金贈呈式が行われます〉

会 場：ポスター・展示会場内 特設会場（パシフィコ横浜展示ホール）

予定議題：1) 経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）

2) 28 年度（2016 年度）決算承認の件

3) 29 年度（2017 年度）活動予算書承認の件

4) その他

※総会会場にて軽食（サンドウィッチ・ジュース）をご用意いたします。

（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

※総会出欠票はがき（委任状）は、本会報ならびに新年度会費請求書の両方に同封しておりますので、いずれかでご返送ください。

第 6 回 富澤基金贈呈式のご案内

「富澤純一・桂子 基金」による第 6 回（2016 年）日本分子生物学会若手研究助成の贈呈式を下記の要領により開催します。多くの方々のご参加をお願いいたします。

理事長 荒木 弘之
基金運営委員会委員長 山本 正幸

日 時：平成 28 年 12 月 2 日（金） 12：15（総会終了後）～12：45 予定

会 場：ポスター・展示会場内 特設会場（パシフィコ横浜展示ホール）

第 6 回助成者：

大谷美沙都（奈良先端科学技術大学院大学）

大畑 樹也（浜松医科大学）

尾崎 省吾（Focal area of Infection Biology, Biozentrum, University of Basel）

倉石 貴透（金沢大学医薬保健研究域薬学系）

島田 裕子（筑波大学生命領域学際研究センター）

楢本 悟史（東北大学大学院生命科学研究科）

第39回(2016年)日本分子生物学会年会 開催のお知らせ(その3)

会 期：2016年11月30日(水)～12月2日(金)
会 場：パシフィコ横浜
年 会 長：一條 秀憲(東京大学大学院薬学系研究科)
年会事務局連絡先：第39回日本分子生物学会年会事務局
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4階
Tel：03-3230-2744 Fax：03-3230-2479 E-mail：mbsj2016@aeplan.co.jp
URL：http://www.aeplan.co.jp/mbsj2016

※年会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

【プログラム】

プレナリーモーニングセミナー

シンポジウム

ポスター

フォーラム

バイオテクノロジーセミナー

市民公開講座「ゲノム編集は生命観を変えるか？」

キャリアパス委員会企画

研究倫理委員会企画「研究倫理フォーラム」

高校生研究発表

機器・試薬・書籍等附設展示会

特別企画「ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)」(展示)

「使ってみようバイオデータベース—つながらるデータ、広がる世界(Bio DB)」(展示)

【参加登録に関するご案内】

○参加登録手続きについて

事前参加登録は10月14日(金)に締め切りました。以降の参加登録受付は年会当日に会場で行います。なお、オンライン上で登録を行った場合でも、10月18日(火)までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前参加登録は無効ですので、当日参加登録を行ってください。

事前参加登録者には11月中旬頃、参加章(名札)を送付いたしますので、年会当日は参加章を着用のうえ、そのまま会場へご入場ください。参加章を着用していない方の入場は固くお断りいたします(12月2日(金)市民公開講座を除く)。

○参加登録受付窓口

窓 口	場 所	時 間	内 容
第1受付	会議センター2階	7:30～17:30	当日参加登録・総合案内 学会入会(学会事務局デスク)・ 宿泊案内(トラベルデスク)
第2受付	展示ホール1階	8:00～17:30	当日参加登録のみ

○当日参加登録費

正会員	学生会員	非会員	学部学生
10,500 円（不課税）	6,500 円（不課税）	13,500 円（税込） ※プログラム集含む	学生証提示により無料 ※院生は対象外

※シニア会員、次世代教育会員は、年会事務局にお問い合わせください。

(Tel : 03-3230-2744 E-mail : mbsj2016@aeplan.co.jp)

【オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム／アプリ】

○プログラム検索・要旨閲覧システムは、オンラインとオフライン（アプリ（iOS、Android））で閲覧可能です。参加者、演者間でメッセージ送信できる「プライベートメッセージ機能」等、充実した機能を取り揃えております。11月16日(水)に公開予定です。

※オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム／アプリはフィーチャーフォン（ガラケー）には対応していません。ご了承ください。

○年会ホームページの「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」にアクセスしてください。また、アプリは App Store、Google Play よりダウンロードしてください（無料）。

アプリケーション名：第39回日本分子生物学会年会

検索ワード：mbsj2016

「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」へのアクセスはこちらから

年会ホームページ <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2016>

※2016年11月16日(水)より公開予定。

○事前参加登録者には、オンライン要旨閲覧システム／アプリにログインするためのIDとパスワードを、年会事務局よりメール、および参加章に印字してお送りいたします。

○事前参加未登録者は、ログインなしに、プログラム検索のみ利用可能です。ただし要旨の閲覧・ダウンロード、スケジュール登録はできません。年会会場で当日参加登録を行った方には、その場でログインIDとパスワードが発行されます。

○年会会場では会場既設の無線LANが利用可能です（SSID：FREE-PACIFICO パスワード：なし）。ご自身のPC、タブレット、スマートフォン等を用いてオンラインプログラム検索・要旨閲覧システムをご利用ください。

○年会に参加せず、要旨閲覧のみご希望の方は年会事務局までメールにてお申し込みください（mbsj2016@aeplan.co.jp）。

【Late-breaking Abstracts について】

本年会では最新の研究成果をもとに議論を深めたいと考えておりますので、Late-breaking Abstracts ポスター発表を行います。一般演題とは異なりプログラム集には掲載されておきませんが、オンライン要旨閲覧システムでご覧いただくことができます。Late-breaking Abstracts の発表形式は、座長のつかない自由討論形式となります。

【日程表（予定）】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
11月30日(水)	8:00-8:45	シンポジウム 9:00-11:15			ハイテクセミナー 11:55-12:45 キャリアパス委員会企画 11:30-12:45	シンポジウム 13:00-15:15						フォーラム 18:15-19:45	
	貼付								自由討論 15:30-16:15	ポスター発表・討論 16:15-17:30	自由討論 17:30-18:00	撤去	
機器・試薬・書籍展示 10:00-18:00													
12月1日(木)	8:00-8:45	シンポジウム 9:00-11:15			ハイテクセミナー 11:55-12:45 キャリアパス委員会企画 11:30-12:45	シンポジウム 13:00-15:15						フォーラム 18:15-19:45 研究倫理委員会企画 18:15-19:45	
	貼付								自由討論 15:30-16:15	ポスター発表・討論 16:15-17:30	自由討論 17:30-18:00	撤去	
機器・試薬・書籍展示 10:00-18:00													
12月2日(金)	8:00-8:45	シンポジウム 9:00-11:15			ハイテクセミナー 11:55-12:45 総会・宮澤基金贈呈式 11:30-12:45	シンポジウム 13:00-15:15						市民公開講座 18:15-20:15	
	貼付								高校生研究発表 15:30-18:00		自由討論 15:30-16:15	ポスター発表・討論 16:15-17:30	自由討論 17:30-18:00
機器・試薬・書籍展示 10:00-18:00													

市民公開講座「ゲノム編集は生命観を変えるか？」のご案内

近年、分子生物学の研究において、CRISPR/Cas9等を用いた現代的なゲノム編集技術の種々の分野での利用が拡大しつつあります。現代的なゲノム編集技術は、古典的な遺伝子組み換え手法よりも、生命の真理の探求において、その効率や精密さにおいて圧倒的に優れています。また、育種等においては自然交配よりも短期間で、目的とする有用な形質をもった作物や畜産物をつくりだすことを可能にしました。一方、疾患の治療を目的とした、ヒトの細胞に対してゲノム編集技術を応用した研究も報告され始めています。ゲノム編集技術のこのような側面は、必然的に生命倫理的な問題を包含しています。本市民公開講座では、種々の立場から、現代的なゲノム編集技術の現状と、その応用にまつわる課題について、パネル討論形式で議論を深めることを目的としています。本テーマに関心のある本学会関係者ならびに一般市民の方々の多数の参加を希望いたします。

日 時：2016年12月2日(金) 18:15～20:15

会 場：パシフィコ横浜 会議センター 5階 503 (第18会場)

パネル討論者

石井 哲也 (北海道大学安全衛生本部 教授)

生命倫理研究者。遺伝子組換え作物、幹細胞研究、生殖補助医療、遺伝子治療などに関心がある。

石野 良純 (九州大学農学研究院 教授)

分子生物学者。1986年に大腸菌よりCRISPRを発見。

斎藤 通紀 (京都大学大学院医学研究科 教授)

幹細胞から生殖細胞を分化させることに成功。

武藤 香織 (東京大学医科学研究所 教授)

生命倫理研究者。とくに生殖補助医療や遺伝性疾患に関して、患者や被害者の立場からの問題を扱う。

モデレーター

瀬川 茂子 (朝日新聞社科学医療部 記者)

防災、脳科学、幹細胞生物学などを専門とする。

企画

大隅 典子 (東北大学大学院医学系研究科 教授)

研究倫理フォーラム 開催のお知らせ

研究倫理委員会企画・研究倫理フォーラム「生物学実験に使う統計学(仮)」を下記の要領で開催いたします。プログラム内容は決まり次第、第39回年会および学会ホームページにてお知らせします。

日 時：2016年12月1日(木) 18:15～19:45

会 場：パシフィコ横浜 会議センター 4階 411 + 412 (第10会場)

会場にて軽食(100食程度)をご用意いたします。

キャリアパス委員会主催 ランチョンセミナー 2016

卓越研究員制度の活かし方 — 選ぶ側の論理と選ばれる側の論理

日 時：2016年11月30日(水) 11:30～12:45
会 場：パシフィコ横浜 会議センター 3階 301 (第3会場)
司 会：中川 真一 (北海道大学大学院薬学研究院)

●講 演

塩崎 正晴
(文部科学省科学技術・学術政策局 人材政策課課長)

●ケータイをつかった聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員

井関 祥子 (医科歯科大・医歯)
小野 弥子 (都医学研)
小林 武彦 (委員長/東大・分生研)
柳田 素子 (京大・医)

※参加者の皆様にはご自身のスマートフォン・タブレット端末等から専用サイトへアクセスしていただき、ご意見を会場のスクリーンにリアルタイム表示する「ケータイアナライズシステム」を導入します。

※ランチョンセミナーの事前予約ならびに当日の整理券配布については第39回年会ウェブサイトよりご確認ください。

「安定性のあるポストに就きながら、産学官の機関や分野の枠を越えて、独創的な研究に専念できる環境を提供する」ことを目指し、早くから大きな注目を集めてきた卓越研究員制度ですが、事業がスタートした初年度ということもあり、様々な問題点が指摘され始めています。そもそも、受入機関と応募者は、お互いの事情と思惑をどれだけ理解し合っているのでしょうか？

本ランチョンセミナーでは、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課より塩崎課長をお招きし、現場の研究者と施策を講じる行政双方の立場から意見を交え、この制度をどのように活かしていけば良いのか共に考える舞台を作りたいと思います。

これでいいのか大学院教育！

日 時：2016年12月1日(木) 11:30～12:45
会 場：パシフィコ横浜 会議センター 3階 301 (第3会場)
司 会：胡桃坂仁志 (早稲田大学先進理工学部)

●イントロダクション

小林 武彦 (キャリアパス委員会 委員長)
「博士という資格」

●ケータイをつかった聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員

石井 優 (阪大・医)
岩崎 渉 (東大・理)
大谷 直子 (理科大・理工)
小林 武彦 (委員長/東大・分生研)
須藤 裕子 (東レ・先端融合研)
東山 哲也 (名大・ITbM)

※参加者の皆様にはご自身のスマートフォン・タブレット端末等から専用サイトへアクセスしていただき、設問へのご回答やご意見を会場のスクリーンにリアルタイム表示する「ケータイアナライズシステム」を導入します。

※ランチョンセミナーの事前予約ならびに当日の整理券配布については第39回年会ウェブサイトよりご確認ください。

大学院とは何をする所でしょうか？

その先に何を見据えて進学するのでしょうか？

大学院修了後には、必ず「就職」というライフイベントが存在します。多くの大学院生は、大学や研究機関などのアカデミックポジションや、企業の研究職への就職を希望しています。しかし、大学院を出たからといって必ずしも希望職に就けるとは限りません。希望を叶えるためには、大学院でどのような教育(勉強)が必要なのでしょうか？

本セミナーでは、大学院修了後のキャリアパスの可能性を広げ、生命科学研究者としての就職難時代を生き抜くために、大学院で何を学び身につけるべきか、そのためにはどのようなサポートが必要なのか、皆さんと一緒に考える場にしたいと思います。

キャリアパス委員会報告

1. 第39回日本分子生物学会年会に関連して

i) 演題発表者の属性調査について

今年も年会の演題登録ページに属性調査項目を設定し、研究者の属性に関するアンケートを行いました。ご回答くださった皆様、ありがとうございます。現在、結果の集計を進めております。分析結果はポスターにまとめ、年会会場に掲示し、学会ホームページでご報告いたします。

ii) 年会託児室の利用について

分子生物学会の年会に初めて託児室が設置された2001年以来、利用者の要望にあわせて、サービスの向上に取り組んでいます。過去2年好評でしたお子さま用お弁当予約受付を今年も行うことになりました。託児室利用・お子さま用お弁当の申込締切は2016年11月22日(火)です。詳しくは第39回年会のHPをご覧ください。利用者の方は、利用者アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

2. アンケートの実施

i) BMB2015 両学会共同企画ランチョンセミナー関連アンケート

日本生化学会男女共同参画推進委員会と行ったBMB2015 両学会共同企画ランチョンセミナー『研究者のライフイベントを考える―目指すべき制度改正と環境改善―』(2015年12月開催)では、日本学術振興会から講師を招いて議論をし、現状の枠組みとそこで起きる問題、解決策などについて考えました。その後、より具体的な提案へつなげることを目的に、2016年5月23日～6月6日の期間、アンケートを実施しました。対象者は本学会または日本生化学会の会員で特別研究員の採用経験者の方とし、記名での回答をお願いしました。内容は、特別研究員としてライフイベントのどのような困難に直面し、相手は誰で、どのように解決したか、またはどのような結果になったかということをお尋ねしました。その結果、59名の方から回答いただきました。

調査結果は特別研究員事業の実施機関である日本学術振興会のみ提供するものとし、また公開はいたしません。データは両学会で責任を持って保管いたします。

ii) 大学院教育に関するアンケート

2016年5月27日～6月10日の期間、大学院教育に関するアンケートを実施し、527名の方から回答いただきました。ご協力ありがとうございました。調査結果は学会ホームページに掲載しております。また、年会のキャリアパス委員会企画ランチョンセミナー『これでいいのか大学院教育!』の際にも取り上げるほか、生物科学学会連合、日本学術会

議、文部科学省を含む行政等への提出資料に使わせていただきます。

iii) 卓越研究員制度に関するアンケート

2016年9月26日～10月11日の期間、卓越研究員制度に関するアンケートを実施し、485名の方から回答いただきました。ご協力ありがとうございました。この調査結果をふまえ、年会のキャリアパス委員会企画ランチョンセミナー『卓越研究員制度の活かし方―選ぶ側の論理と選ばれる側の論理』の準備を進めております。調査結果は文部科学省を含む行政等への提出資料に使わせていただきます。また、学会ホームページに掲載いたします。

3. 男女共同参画学協会連絡会報告

「女子中高生夏の学校 2016～科学・技術・人との出会い～」(8月6日～8日)について

このイベントは、国立女性教育会館が主催となり、女子中高生が科学技術の世界の楽しさや活躍する女性たちの生き方の魅力に触れ、科学技術に関心のある仲間や先輩と知り合うことを目的として開催されており、男女共同参画学協会連絡会もその企画・運営に協力しています。今年も、全国から115名の女子中高生、27名の保護者・教員が参加しました。

分子生物学会は毎年、「実験・実習」プログラムの講師やポスター発表、理系進路に進んだ先輩と交流するキャリア相談プログラムへの参加などを通じてイベントへ協力しております。今年も昨年に引き続き全会員に呼びかけ、有志の方にご協力いただきました。

〈実行委員長〉

横倉隆和 (沖縄科学技術大学院大学)

〈実験・実習〉

・「ウイルスを知ろう―ウイルス粒子模型の作製」

下池 貴志 (国立感染症研究所)

〈ポスター〉

・「腎臓の仕組みや腎臓病を知る」稲城 玲子 (東京大学)

・「ウイルス感染症を科学する」植松 崇之 (北里大学)

〈キャリア相談〉

田代有美子 (日本歯科大学)

募集の際には多くのお申し出をいただき、誠にありがとうございました。今後も中高生へ分子生物学の魅力を伝え、理系進路選択の支援を続けていきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。

キャリアパス委員会 委員長 小林 武彦

第20期理事選挙結果のご報告

2016年11月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

過日、実施されました、第20期理事選挙につきまして、以下の通りに投票結果をご報告いたします。(第20期理事の任期は2017年1月から2018年12月までの2年間です)

- 選挙公示日 2016年6月10日(金) (会報114号発送)
- 投票期間 2016年6月22日(水) 9:30～7月13日(水) 17:00
- 開票日 2016年7月15日(金)
- 開票場所 日本分子生物学会事務局
- 開票立会人 第20期理事選挙・選挙管理委員会 (岩崎博史委員長、後藤由季子委員、井関祥子委員)
- 有権者数 12,093名
- 投票者数 1,213名
- 投票総数 12,130票 (うち白票3,987票)

○当選者 (50音順)

阿形 清和 (学習院大・理)	塩見 春彦 (慶應大・医)
五十嵐和彦 (東北大・医)	白髭 克彦 (東大・分生研)
石川 冬木 (京大・生命)	菅澤 薫 (神戸大・バイオシグナル総合研究センター)
稲田 利文 (東北大・薬)	杉本亜砂子 (東北大・生命)
上田 泰己 (東大・医)	中島 欽一 (九大・医)
大隅 典子 (東北大・医)	仲野 徹 (阪大・医 / 生命機能)
貝淵 弘三 (名大・医)	中山 敬一 (九大・生医研)
影山龍一郎 (京大・ウイルス研)	鍋島 陽一 (先端医療財団先端医療センター)
菊池 章 (阪大・医)	西田 栄介 (京大・生命)
木村 宏 (東工大・科学技術創成研究院)	深水 昭吉 (筑波大・TARAセンター)
胡桃坂仁志 (早稲田大・先進理工)	正井 久雄 (都医学研)
後藤由季子 (東大・薬)	三浦 正幸 (東大・薬)
小林 武彦 (東大・分生研)	水島 昇 (東大・医)
小原 雄治 (遺伝研)	山本 卓 (広島大・理)
小安 重夫 (理研・IMS)	吉田 稔 (理研・和光)

以上30名

- 本選挙において、当選者の中から3名の理事就任辞退者が出ました。「理事選挙に関する選挙管理委員会内規」に基づき、選挙管理委員長と現理事長で協議を行い、その結果、次点者を繰上げ当選としました。ご報告します。

○第20期理事長選任について

2016年10月6日、東京で開催されました第20期新理事会準備会議において、杉本亜砂子氏 (東北大学大学院生命科学研究所・教授) が第20期理事長 (任期: 2017年1月より2年間) に選出されましたので、ご報告いたします。

第7回(2017年)日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ

本学会は、2010年に富澤純一博士と故・桂子夫人のご厚意を受け、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」を立ち上げ、2011年度より若手研究助成事業を実施しています。

当基金の目的とするところは、分子生物学、あるいはさらに広く生命科学の新しい展開を目指す研究を志しながらも、研究費の欠乏や生活上の制約のために十分に力を発揮できていない若手研究者に、使途を限定しない助成を行って、研究の発展を可能にさせることです。使途を限らない本助成の特色を活用した、創意に富んだ研究推進提案を歓迎いたします。

2017年度も以下のように募集いたします。助成をご希望の方は、下記の応募要項に従って奮ってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
第19期理事長 荒木 弘之
「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」
第2期基金運営委員会 委員長 山本 正幸

***** 【応募要項】

1. 研究助成金の趣旨

分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る若手研究者に対して、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」に基づいて助成します。選考に当たっては、本助成がその方の研究の発展にどれだけ効果的に寄与できるかという観点にも配慮します。

2. 助成金額

助成金額は、一人300万円。年度ごとの助成人数は5名。再度の応募を妨げません。

(2011年から2020年の10年間で総額1億5000万円を助成予定)

3. 応募資格

(1) 分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る39歳以下(*1977年1月1日以降に生まれた人)の若手研究者を対象とします。ただし、研究経歴において特別な事情がある場合は39歳を超えていても応募を受け付けます。

(2) 日本分子生物学会会員・非会員は問いません。

(3) 申請者の単独研究、または申請者が中心になって行っている共同研究を対象とします。

4. 研究助成金の使途、ならびに会計処理

(1) 研究推進に関係することであれば、使途は限定しません(例えば研究時間を確保するためのベビーシッター費用、海外留学費用なども可)。

(2) 本助成金は直接研究費以外にも自由度をもって使用できるものとします。そのために、原則、研究助

成金は一時所得扱いとし、学会が源泉徴収を行います(50万円を超える、250万円につき10%の源泉徴収(*+若干の復興特別所得税が加算されます)を行います。分子生物学会が支払い調書を発行します。*海外からの申請は下記にご留意ください)。

海外に長く滞在の場合、ビザの種類にかかわらず日本国税法区分では「非居住者の一時所得扱い」となります。この場合、いずれの国においても、助成金300万円のうち50万円を超える250万円に対して20%を源泉徴収(+若干の復興特別所得税が加算されます)しなければなりませんので、ご留意ください。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

(3) 助成金の全額または一部を所属研究機関の委任経理金扱いにされたい場合は対応しますので、お申し出ください。この場合、当該部分に対する源泉徴収はありません。ただし本助成から間接経費の負担は行いません。

5. 応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

(1) 最初に、第7回(2017年)日本分子生物学会 若手研究助成 申請サイトへアクセスし、所定の内容を送信してください。

(2) 申請書(電子データ/PDFファイル形式で最大10ページ以内に収めてください)と論文別刷(3篇以内の電子データ/PDFファイル)を添付ファイルの形で、kenkyujosei@mbj.jpへメール送信してください。

(1)(2)の手続きは、その順番どおりに手配を行い、必ず締切日までに2点の手続きを完了するようにしてください。

事務局の資料確認・照合の都合上、(1)(2)の手続きは2日以内を目安に完了してください。(申請書、論文別刷ともに、提出いただくのは電子データのみです。オリジナルの郵送は必要ありません。)

*注意 ホームページ内に設置されます上記の「申請サイト」は、応募受付開始日より、その運用を開始します。

6. 応募受付期間と締切日時

●応募受付期間: 2017年1月13日(金)10:00
~2月10日(金)17:00

●締切日時: 2017年2月10日(金)17:00
(時間厳守)

7. 選考方法

基金運営委員会が選考に当たります。一次書類審査の後、ヒアリングを実施し、その結果により、採択者を決定します。

ヒアリングは2017年5月を予定しており、応募者

本人がヒアリングに出席することを原則としますので
ご留意ください。

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」
第2期基金運営委員会（任期：2015.1.1～2017.12.31）

委員：山本正幸（委員長／基生研）、小原雄治（副
委員長／遺伝研）、上村 匡（京大）、大杉
美穂（東大）、近藤 滋（阪大）、塩見美喜
子（東大）、東山哲也（名大）、杉本亜砂子（職
指定委員／東北大）

8. 研究助成金の交付

2017年6月までに指定銀行口座に送金予定です。

委任経理金にする場合は、各大学等で定められてい
る取扱い規定、その手続きにより交付します。

9. 贈呈式

第7回研究助成対象者については、原則として、
2017年12月の第40回日本分子生物学会年会（神戸）
における富澤基金贈呈式（総会）への出席を要請します。

10. 研究成果公表

本助成金を使用した研究成果を、学術雑誌等に公表
する場合は、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純
一・桂子 基金」（Tomizawa Jun-ichi & Keiko Fund of
Molecular Biology Society of Japan for Young Scientist）
から助成を受けた旨を明記してください。また、同刊行
物の別刷等を1部、本学会事務局へ提出してください。

11. 研究成果および会計報告

(1) 本助成金受領者は、助成金を受領した翌々年の5
月末までに、研究成果と会計報告の概要を、「日本
分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」

基金運営委員会あてに提出してください。様式は問
いません（一時所得扱いの受領者は、会計報告に際
して、領収書の提出は不要です。用途の一覧を提出
ください。研究成果報告書には、論文発表・学会発
表等の情報も含めて作成ください）。

(2) 本助成金受領者は、(1)の研究成果と会計報告を提
出した年に開催される年会において、研究成果発表
（会期中、専用コーナーでのポスター掲示）を行う
ものとしします。

(3) 本研究助成の贈呈対象者として、相応しくない行
為があった場合には、助成金の返還を求めることが
あります。

12. 本研究助成の趣旨に賛同し、基金への拠金をお考え
くださる方は、分子生物学会事務局気付・基金運営委
員会までお申し出ください。

* その他

有志の方々へ

分子生物学の振興に向けた、各種基金のご寄付をお
考えの方がおられましたら、是非ともご連絡ください。
日本分子生物学会が責任を持って対応・運用いたします。

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4階

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」

基金運営委員会

TEL：03-3556-9600 FAX：03-3556-9611

E-mail：kenkyujosei@mbsj.jp

分子生物学会による、国際会議支援システム

（参加登録～演題受付～カード決済／Web 運用）利用のご案内

分子生物学会では、日本発の国際会議を学会が支援す
るために経済的支援を行うことに加え、国際会議を開催
する研究者の事務的な負担を減らすため、支援システ
ム（JTB 西日本による国際会議トータル支援システム /
Web 運用）をご用意しております。国際会議支援の詳
細は同公募要項の中に書かれているとおりですが、同支
援事業の応募とは別に、システムのみを使用されたいと
の希望者につきましては、分子生物学会の会員であれば
同額での利用が可能です。

システムのみを使用されたい場合は、学会事務局（分
子生物学会 国際会議支援システム・システム利用係り
E-mail：info@mbsj.jp）まで E-mail にて、開催概要と連
絡先を明記のうえ、お申込みください。（一旦、学会を
経由してから、JTB 西日本の担当者をご紹介します）

《支援システムの概要》

本学会が JTB 西日本と長期契約を交わしたことによ

り、JTB 西日本による国際会議トータル支援システムを
通常より割安価格で利用できます。

①基本システム代金：23万円（事前参加登録受付・演
題投稿受付・クレジットカード決済等の基本システム
設定）

②オプション / メイン HP 代金：25万円（全体デザイン・
ページレイアウト・サーバ管理 12ヶ月・更新メンテ
ナンス 12ヶ月）

③オプション / オンライン査読システム：8万円

④オプションその他、が利用できます。（メニュー詳細
については、一旦、学会を経由した後、JTB 西日本の
担当者が説明いたします）

なお、この支援のみを受ける場合も、分子生物学会の
支援（システム利用）を受けたことを当該会議の HP、
要旨集などに明記いただきます。

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.114 (6月号) および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 本学会の選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計 6 部
- 3) 申込受付確認のための返信封筒 (返信用の宛名を記入しておいて下さい)
- 4) 論文 (別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です)

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 相賀裕美子
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 塩見 春彦
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がありましたら、学会事務局までお問い合わせ下さい。

※研究助成 (学会推薦) に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

※各種学術賞 (学会推薦) に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり 1 件となっておりますので、ご了解ください。
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いいたします。

第 19 期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

(任期：2015年1月1日～2016年12月31日)

荒木 弘之 (遺伝研)

副理事長

佐々木裕之 (九大・生医研)

塩見美喜子 (東大・理)

理事

一條 秀憲 (東大・薬)

上村 匡 (京大・生命)

大隅 良典 (東工大・科学技術創成研究院)

岡田 清孝 (自然科学研究機構 / 龍谷大・農)

貝淵 弘三 (名大・医)

影山龍一郎 (京大・ウイルス研)

糸 昭苑 (東工大・生命理工)

小林 武彦 (東大・分生研)

小安 重夫 (理研・IMS)

斎藤 通紀 (京大・医)

相賀裕美子 (遺伝研)

塩見 春彦 (慶應大・医)

篠原 彰 (阪大・蛋白研)

白髭 克彦 (東大・分生研)

眞貝 洋一 (理研・和光)

杉本亜砂子 (東北大・生命)

高橋 淑子 (京大・理)

田畑 哲之 (かずさ DNA 研)

長田 重一 (阪大・IFReC)

仲野 徹 (阪大・医 / 生命機能)

林 茂生 (理研・CDB)

深水 昭吉 (筑波大・TARA センター)

水島 昇 (東大・医)

山本 正幸 (基生研)

吉田 稔 (理研・和光)

吉村 昭彦 (慶應大・医)

渡邊 嘉典 (東大・分生研)

監事

辻本 賀英 (大阪府立成人病センター)、花岡 文雄 (筑波大・TARA センター長)

幹事

庶務幹事 深川 竜郎 (阪大・生命機能)、本間美和子 (福島県立医大・医)

会計幹事 水島 昇 (東大・医)

編集幹事 上村 匡 (京大・生命)

広報幹事 金井 正美 (医科歯科大・実験動物センター)、渡邊 嘉典 (東大・分生研)

集会幹事 仲野 徹 (阪大 / 第 38 回年会)、三浦 正幸 (東大 / 第 39 回年会)

第 19 期執行部

荒木理事長、深川庶務幹事、本間庶務幹事、金井広報幹事、渡邊広報幹事

Genes to Cells 編集長

柳田充弘 (沖縄科学技術大学院大学)

賞推薦委員会

相賀裕美子 (委員長)、一條秀憲、貝淵弘三、小安重夫、長田重一

研究助成選考委員会

塩見春彦 (委員長)、大隅良典、影山龍一郎、高橋淑子、林 茂生

国際会議支援・選考委員会

篠原 彰 (委員長)、眞貝洋一、杉本亜砂子、田畑哲之、仲野 徹

キャリアパス委員会

小林武彦 (委員長)、石井 優、井関祥子、岩崎 渉、大谷直子
小野弥子、胡桃坂仁志、須藤裕子、中川真一、東山哲也、柳田素子

研究倫理委員会

白髭克彦 (委員長)、岡田清孝、塩見美喜子、杉本亜砂子

生命科学教育

篠原 彰 (担当理事)

将来計画委員会

小林武彦 (委員長)、一條秀憲、塩見美喜子、杉本亜砂子、水島 昇、渡邊嘉典

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」 第 2 期 基金運営委員会 (任期:2015年1月1日～2017年12月31日)

山本正幸 (委員長)、小原雄治 (副委員長)、上村 匡、大杉美穂

近藤 滋、塩見美喜子、東山哲也、荒木弘之 (職指定)

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2016年10月現在)

アサヒグループホールディングス株式会社 イノベーション研究所
株式会社エー・イー企画
科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター
科研製薬株式会社 創薬研究部
協和発酵キリン株式会社 研究開発本部企画推進グループ
コスモ・バイオ株式会社 開発部
サーモフィッシャーサイエンティフィック ライフテクノロジーズジャパン株式会社
第一三共株式会社 バイオ創薬研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
田辺三菱製薬株式会社 研究本部研究企画部
東洋紡績株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 開発企画部広報課
日本ゼオン株式会社
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
日本たばこ産業株式会社 たばこ中央研究所
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究推進部バイオ研究グループ
フナコシ株式会社
三菱化学株式会社 経営戦略部門 RD 戦略室
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
ワケンビーテック株式会社 学術部

(26社、50音順)

■第 39 回（2016 年）日本分子生物学会年会 公式サイト

URL: <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2016/>

■日本分子生物学会 Facebook 公式アカウント

URL: <http://www.facebook.com/mbsj1978/>

特定非営利活動法人

日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

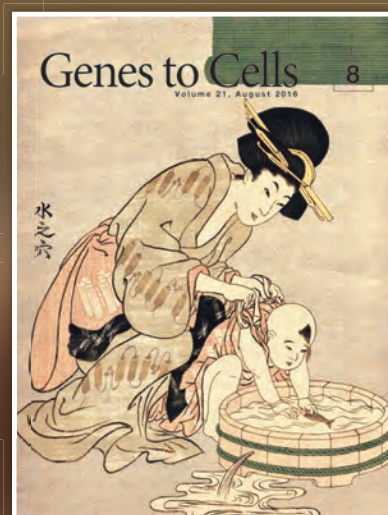
E-mail: info@mbsj.jp

Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Mitsuhiro Yanagida
Frequency: Monthly | Impact Factor: 2.481

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界9,500以上の機関で読まれており、年間216,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。



Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- 2015年からの完全オンライン化でカラー掲載料がなくなりました
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への掲載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6か月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- オープンアクセス希望者はオプションで『Online Open』(有料)を選択できます
- 2012年9月以降の総説は日本分子生物学会のサポートを受け OnlineOpen で公開中

オンライン投稿はこちら

<http://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2014年・2015年出版 引用数TOP論文 *2016年8月現在

TET3-OGT interaction increases the stability and the presence of OGT in chromatin (Volume 19, Issue 1)
Ito, R; Katsura, S; Shimada, H; Tsuchiya, H; Hada, M; Okumura, T; Sugawara, A; Yokoyama, A

Multiple genome modifications by the CRISPR/Cas9 system in zebrafish (Volume 19, Issue 7)
Ota, S; Hisano, Y; Ikawa, Y; Kawahara, A

Suppression of LUBAC-mediated linear ubiquitination by a specific interaction between LUBAC and the deubiquitinases CYLD and OTULIN (Volume 19, Issue 3)

Takiuchi, T; Nakagawa, T; Tamiya, H; Fujita, H; Sasaki, Y; Saeki, Y; Takeda, H; Sawasaki, T; Buchberger, A; Kimura, T; Iwai, K

ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会の会員はオンラインジャーナルに無料でアクセスしていただけます。

ユーザー登録は学会事務局までお申し込みください。
日本分子生物学会事務局: info@mbsj.jp

登録後のアクセスに関するご質問は、
Wiley カスタマーサービスにて承ります。
Wiley カスタマーサービス: cs-japan@wiley.com



WILEY

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

第115号 (2016年11月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——荒木 弘之